

二種混合(ジフテリア・破傷風(DT)) 予防接種説明書

1. 予防接種の対象となる病気

◆ ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。ジフテリアは感染しても10%程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状が出ず、保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。

感染は主にのどですが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することがあります。

◆ 破傷風

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にひそんでいて傷口からヒトへ感染します。菌が体の中で増えますと、菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。患者の半数は自分や周りの人では気がつかない程度の軽い刺し傷が原因です。日本中どこでも土中に菌はいますので、感染する機会は常にあります。

2. 沈降精製ジフテリア破傷風混合トキソイド(DT) (不活化ワクチン)

ジフテリアトキソイド及び破傷風トキソイドを混合した不活化ワクチンです。

3. 副反応

DT トキソイドは、10 歳以上で接種するとジフテリアトキソイドによる腫れが強まるなど、副反応が強くなることが多く注意が必要です。接種量は減量して 0.1ml だけ接種します。副反応はほとんどありませんが、接種箇所が赤く腫れる程度の局所反応があります。

4. 接種時期

定期接種は1期と2期に分けて、1期はDPT-IPV(ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ)四種混合ワクチン、2期はDT(ジフテリア・破傷風)二種混合ワクチンの接種を受けます。

1期は生後3ヶ月～7歳6ヵ月未満の期間に4回接種しています。

今回2期として11～13歳未満の間(標準的には11～12歳未満)にDT(ジフテリア・破傷風)トキソイドで追加接種を1回します。この年齢では百日咳ワクチンは必要ないので、DTトキソイドを受けて破傷風とジフテリアの免疫を高めます。

1期の接種を全く受けずに11～12歳になってはじめて、2期の接種を1回だけ受けても免疫はできません。この場合、3～8週間隔で2回接種し、2回目の1年～1年半後に1回追加接種しますが、その場合、今回の1回以外は任意接種(自費)となります。

予防接種を受けるに際し、次のことに十分注意のうえお受けください。

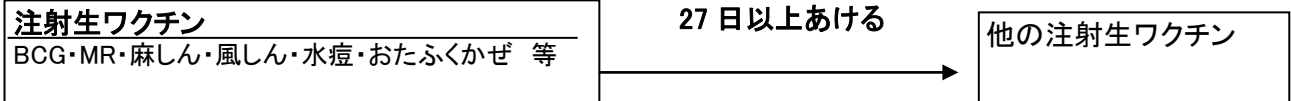
- 予診票は、接種を受けるお子様の当日の健康状態を保護者の方が責任をもってご記入ください。
(各項目の記入漏れがないようご注意ください)
- 説明書及び下記の注意事項をご理解のうえお受けください。

(1) 予防接種を受けられないお子さんは、次のようなお子さんです。

- ① 明らかに発熱のある人(37.5℃以上の方)。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。
- ③ その日に受ける予防接種によって、または予防接種に含まれている成分で※ アナフィラキシーを起こしたことがある人。
- ④ その他、医師が不適切な状態と判断した場合。

※アナフィラキシーとは、接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるような、はげしい全身反応のことです。

(2) 予防接種の効果や安全性を確保するため、異なる種類のワクチンを接種する際は、次のことにご留意ください。



上記以外では、異なる種類のワクチン接種間隔は制限なし

(3) 接種後の一般的注意事項は次のとおりです。

- ① 接種当日は過激な運動はさけてください。
- ② 接種後生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意してください。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、わざと注射した部位をこすことはやめ清潔にたもってください。
- ④ 局所の異常な反応や体調の変化を訴える場合は、速やかに医師の判断をお受けください。
- ⑤ 接種後、高熱・けいれん・不機嫌等の異常な症状をあらわした場合は速やかに医師の診察を受けてください。

(4) 予防接種による健康被害救済制度

予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じたりした場合には、給付を受けられる可能性があります。

※その際には、健康増進課までご相談ください

(健康増進課 電話 0285-22-9526)